

放課後等デイサービス事業所における自己評価

公表：令和4年3月15日 実施期間：令和4年2月21日～3月4日 事業所名 ラルーチェめぐみ

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	2		・机の向きやタンス、ロッカー、パーティションの配置などで仕切りを行っている。	・個別療育室やクールダウンができる部屋がないため、児発棟を借りる場面もある。
	2	職員の配置数は適切である	6	2	1		・人数は適切であっても、専門職の専門性を活かしきれていない場面も見られるため、余力ある人員配置が必要と感じている。 ・送迎に行っている際に待機できる職員がいない場合もある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	3	0		・従たる事業所のぞみは2階にあるため難しい。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	2	0	適時、情報共有を行っている。	一部の職員のみでの参加となってしまうため、職員会議等で話し合いができるようにしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0	0		ホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	3	0		今年度は第三者評価はなし。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	0	太田ステージ等の事業所内研修を行い、現場にて実践している。	コロナ禍のため外部研修の機会は少なかったが、オンライン等での研修を受け、職員会議や報告書等にて知らせている。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	2	保護者より聞き取りを行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	2	0	・他グループの意見も取り入れるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	3	0	・季節的な行事やいろいろな活動を取り入れられるように話を行う。	・支援内容はその都度かえるようにしており、他グループとも話し合いを行う。コロナ禍で固定せざるを得ない場面もある。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	2	0		長期休暇などは様々な活動ができるように計画を行う。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	0		・利用児の年齢が下がったことにより、個別の療育時間を設定できている。 ・集団療育に偏りがちで、個別療育の実施が十分でないため、支援体制については検討していく必要がある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2	0		朝の朝礼時や適宜話をする場を設けている。 グループの話をする時間を設けながら、支援の方向性を検討する場も設けている。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	1	・引き継ぎ書に記入	職員の勤務時間が異なることと、営業終了時刻と職員の終業時間が同じなため、その日振り返り等については翌日にすることが多い。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1	0	・引き継ぎ書に記入 ・連絡帳は極力療育の内容を詳細に記入している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	8	1	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	0		・無回答1名
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	1	0		・学校により情報共有の方法が異なるためその都度学校や保護者等に確認を行うようにしている。 ・コロナの関係で学校の様子が見学できていないので収束してから行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	3	3		・医療的ケアが必要な児童の受け入れは行っていない。 ・無回答2名
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	3	0		担当者会議にて保護者や事業所より聞き取りを行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	1	1		今年度は卒業児童はおらず、例年はしっかりと情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	1		・コロナ禍のため実施できてきかない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3	6		・園外支援に出たときに交流することがある。 ・地域交流はあるが、コロナの影響で希薄になっている。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	4	3	2		・コロナ禍のため開催数は少なかったが、子ども部会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	0		
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	3		・今年度はコロナ禍のため実施できず。・無回答2名	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	0		・契約時に重要事項説明書等にて説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	2	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	2		・父母の会はない。今年度もコロナ禍のため実施できず。次年度検討を行う。 ・無回答1名
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	0		・早急に情報共有している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	0		・ラレーチェダより、のぞみ通信を配布したり、ホームページを更新し日頃の様子を伝えている。
	35	個人情報に十分注意している	9	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	2		・以前は行っていたが、コロナ禍のため今年度は実行できていない。・無回答2名
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2	0		・感染症マニュアルとしてフローチャートを作成し、掲示にて保護者に案内をする。緊急時や防犯については周知できていない。現在、非常災害防災計画を作成中である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	0		・毎月行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	0		・法人内での研修への参加をしているが意識の違いによりすべてが適切であるとは断定できない。事業所では職員会議等にてその都度情報共有、意識の共有化を図っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	0	0		・身体拘束に至らない様に職員間で意見を出し合い、工夫を重ねている。やむを得ない場合については、保護者に同意書を作成し確認を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	1		・特に医師からの指示書の提示はないが、保護者からの除去依頼があり、対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	0	ヒヤリハットシートを活用し、事業所内で改善に努めている。	